

倉敷の河合さん 月替わりで発送

倉敷市児島田の口の保育士河合綾さん(33)が、災害時に子どもが安心して口にできるお菓子を詰めた「防災クッキー缶」を考案した。非常時に備える一方で、日常のおやつとしても食べられるよう1カ月ごとに菓子作りをし、「定期便」として発送している。

河合さんは、2018年の西日本豪雨で同市真備町地区の友人宅が被災した際、ボランティアとして活動した。その経験を踏まえ、防災用品としての非常食に着目。小さな子どもでも食べやすいクッキー作りを思い立ち22年6月、店舗をもたない焼き菓子店「fuwari」を開業した。



子どもが安心して食べられる「防災クッキー缶」考案

使った分を買い足していく「ローリングストック」の考え方で製造。1缶当たり50枚の手作りクッキーを毎回替えて詰め合わせ、1カ月おきに送る。

添加物は使わず、栄養価が高く植物繊維が豊富な全粒粉を用いるなど素材にはこだわる。子どもの関心を引くように、カボチャやほうれん草、紫芋など野菜のパウダーで色付けしたり、クマやブタといった動物の型抜きしたものも用意した。

小学1年生を筆頭に3人の子育て中の河合さんは「災害時でも、子どもたちがふたを開け、クッキーを食べて笑顔になれるようにと、味や形を工夫した」と話している。

食品ロス削減のため、受注生産としている。3カ月定期の申し込みで1缶2800円、単発は同3千円(いずれも送料別)。申し込み、問い合わせは同店のウェブサイト(<https://fuwari24.jp/eraichicom/>)から。(池葉須則夫)

河合さんが製造、販売している「防災クッキー缶」。内容は毎月替わる

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

倉敷市の保育士が「防災クッキー缶」を考案しました。記事を読み質問に答えましょう。

低学年もチャレンジ!

Q1

記事に載っている「防災クッキー缶」の写真を見て、どのように思いますか。もし災害に遭った時に食べられるとしたら、どう思いますか。

Q2

このクッキーは、非常食として備えながら、日常のおやつとしても食べられるように作られています。このように、使った分を買い足しながら災害に備える考え方を何と言いますか。記事から抜き出しましょう。

Q3

クッキー缶は注文を受けた分だけ製造する「受注生産」の形をとっています。この生産方法をとった理由は何ですか。最後の段落を参考に答えましょう。

過去の問題はこちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。